

考古学から見た播磨町の遺跡や出土品など、文化財のよもやま話をお届けします

# 播磨町むかし昔

## その二 『播磨国風土記』に記された鴨波里②

播磨町のむかし昔、奈良時代の初めに成立した『播磨国風土記』には、「播磨国賀古郡」として「望理・長田・馱家・鴨波」の四つの里の記載がありました。

次に、平安時代前期の史料である高山寺本『倭名類聚抄』を見ると「望理・長田・賀古・住吉」の四つの郷に変化していることが分かります。里が郷に替わったのは、その一でお話したように国郡里制が国郡郷制になったためです。望理郷は加古川の左岸、八幡町・神野町に当たり、長田郷は海岸寄りの尾上町長田・安田付近に比定することができます。あとの二つ（賀古郷・住吉郷）は風土記の馱家里・鴨波里とどんな関係になるのでしょうか。

郡名の賀古と同じ名前を使用する賀古郷は、賀古郡の中心地に当たると考えられ、野口町に所在する「賀古馱家

跡（古大内遺跡）から坂元に比定でき、馱家里が賀古郷に替わったと想定されます。

残るは、鴨波里と住吉郷です。鴨波里は、風土記に書かれた「鴨波里の舟引原と神前村」の遺称地と考えられる小字が、稲美町六部一（舟引）と播磨町古宮（神作）に見られ、この範囲を鴨波里と推測して間違いありません。なお、風土記には粟を多く植えた地であることが書かれていたため、現稲美町全域のみを当てる説もあったのですが、平城京跡出土の荷札木簡に淡葉郷から御贄として大蛸を納めたもの（前回の写真）が発見され、海辺の村も含まれることが裏付けられたのです。

現在の播磨町は『播磨国風土記』に記載された「阿閑村・阿閑津」を含め、鴨波里に属していたことが明らかになり

【問合せ】 播磨町郷土資料館 学芸員 大平 茂  
☎ 079 (435) 5000



賀古郡の里の推定復原

ました。さらに、風土記の阿閑村は近世阿閑庄の海岸側地域（宮西・本庄・古田・古宮など）とほぼ一致し、本庄の小字に「阿閑ノ元」があり、ここを中心に加古川市別府町西脇を含む範囲と考えられます。最後に、『高砂市史』第一巻によると、鴨波が阿閑の好き字とする説を採っています。では、なぜ好き字とされた鴨波が住吉に変化したのでしょうか。これは、次回のお楽しみです。

町の人口 4月1日現在 住民基本台帳人口（ ）は前月比  
34,748人（-41人） 男…17,033人（-31人） 世帯数…14,313世帯（+19世帯）  
女…17,715人（-10人）

